

令和4年度倉敷市図書館協議会議事録（要旨）

開催日時 令和4年7月28日（木）14時00分～15時30分

開催場所 倉敷市立中央図書館 3階研修室

協議事項 （1）令和3年度事業報告
（2）令和4年度事業計画
（3）「複合施設における図書館の在り方についてのアンケート」について

出席者 委員： 宇多川委員、木村委員、玄馬委員、佐藤委員、武田委員、中川委員、
中村委員、山邊委員（8名）

事務局： 井上教育長、早瀬教育次長、三宅生涯学習部長、梶田中央図書館長、
長野中央図書館課長主幹、小川中央図書館課長主幹、奥田中央図書館
館長補佐、姫井中央図書館主幹、原田水島図書館長、藤田児島図書館
館長、児玉玉島図書館長、丸谷船穂図書館長、石井真備図書館長
（13名）

欠席者 津田委員、藤井委員

傍聴者 1人

報道関係 1社

議事録（要旨）

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員委嘱状交付
- 4 委員紹介
- 5 委員長・副委員長選出
- 6 議題
 - （1）令和3年度事業計画
 - ①新型コロナウイルス感染症対策について
 - ②事業実績について

(2) 令和4年度事業計画

行事・予算等について

〈事務局〉 (説明)

〈委員〉 雑誌・新聞等費が令和3年度と比べて令和4年度が減っているのは、雑誌スポンサー制度を使われているからでしょうか。

〈事務局〉 雑誌・新聞等費は図書購入費の中で全体的に運用しています。今年度は昨年度よりも雑誌のタイトル数を増やして提供しております。

〈委員〉 有効登録者数(図書館協議会資料p10)はこの程度なのですか?少ないのが気になります。

〈事務局〉 合わせて18ページの登録率も参照してください。こちらは分母が人口で、分子が個人の登録者数のうち、1年間に図書館のカードを利用された人の数です。8.7パーセントで、1割にも満たない数です。

〈委員〉 昨年度はコロナの影響で、行事が予定通りできない中、子ども向けの行事は充実していたようですが、大人向けの行事は少なかったと思います。今年度は各館、大人向けの行事を予定しているようなので、よろしく願います。

〈事務局〉 昨年度は、コロナで行事を中止せざるをえない状況の中で、子ども向けの行事はできるだけ開催したため、割合的には子ども向けの行事が多くなりました。大人向けの行事はあまりできませんでしたので、今年度はぜひ開催したいと考えています。

〈委員〉 大人向けの行事は例えばどんなものですか?

〈事務局〉 7月24日にボランティアさんと協働で、絵本作家さんをお招きして講演会を実施し、100人程度の参加がありました。今後も協力しながら、大人向けの行事を開催したいと思っています。

(3) 「複合施設における図書館の在り方についてのアンケート」について

〈事務局〉 説明

〈委員〉 キッチンカー(配布資料:他市の取組事例に掲載)についてですが、図書館にキッチンカーが来るということですか?

〈事務局〉 図書館の屋外にキッチンカー来て、来られた方が利用できるという事例で

す。

〈委員〉 問9の「倉敷市立図書館を利用しない理由はなんですか。」の中の「その他」の82件の回答は、具体的にどのようなものがありましたか。

〈事務局〉 「本を読まないから」、「コロナであるから」、「インターネットを利用して済みますから」などです。中でもかなりコロナの関連の回答が多かったです。

〈委員〉 このアンケートは単純集計になっていますが、現住所は倉敷地区が半数でそれ以外の方が半数。図書館を利用したことがない方が7割で、利用したことがある方の回答が2割強にとどまっている観点で、図書館を利用したことがない方が、どこまで図書館の開館時間について意見を考えられるのだろうかとか、図書館に何を求めるのか十分にイメージできているかというところに少し疑問に感じます。特に、問9の「図書館までの交通の便が不便だから」というのは、これは倉敷地区の方でないのではないかと思います。どちらかというところ、中央図書館は倉敷の中心部にあり、アクセスしやすい方だと思います。中央図書館ですから、倉敷地区の方のみが利用するという想定をしてはいけないのは分かるのですが、中心的な利用者が倉敷地区であるということと、倉敷地区の方がどう思われているのか、図書館を利用していると答えた26%の方々が、この複合施設についてどう考えているのかということにも注目しないといけないと思います。図書館を利用したことがない方というのは、飲食スペースとか子どもが遊べるスペースとか、違うものを求められているのだろうと思います。例えば、小さい子どもがいたりすると、児童館に行って子どもがゆっくり遊べて、お母さん方は集まってお茶でもできるような場所というのがあればいいなという感覚でもし回答したのであれば、それは図書館に求めるものではないのかなと思います。そういうスペースが複合施設の中にあるのはいいのですが、図書館にそこがあまりにも強く求められてしまうと違うのではないかと思います。そのあたり、クロス集計というやり方で分析されてもいいのかなと思いました。

〈事務局〉 年齢別や居住地別のクロス集計はしてみましたが、それによってすごく差があるというところは少なかったもので、今回は単純集計を公表をしま

した。例えば電子書籍の利用については、年齢別のクロス集計でかなりの差がありました。そのほかはあまり差がみられなかったというのが現状です。貴重なご意見をありがとうございました。

〈委員〉 図書館を利用している方にアンケート等をするということは考えられていますか。

〈事務局〉 今回のアンケートは、利用している人も利用していない人もご意見を伺いたいという意図で行いました。今後は、また別のカテゴリーの方にも聞いていく方法というのを考えていきたいと思います。

〈委員〉 このアンケートを見て一番に衝撃だったのは、図書館を過去1年間に利用したことがない人が7割いたということでした。これは図書館の今後の大きな課題になると思います。そういう意味では、9ページ問20のこんなサービスがあったら、という質問が妥当だと思います。他県の図書館の事例で、スマートフォンで本の検索ができるアプリを若者たちが作り、それを見た人が初めて図書館へ行ったら、図書館はこんなにいいところだったという感想をもらした、と。お金はかかることなのですが、Wi-Fi環境は絶対必要だと思います。

昨年度の協議会で、市民の意見を吸い上げるシステムを作ってほしいと言いましたが、このアンケートはその一環だと思います。その点では非常にありがたいと思います。

複合施設ができたときに、図書館の敷地が今の図書館よりも縮小されるのか気になります。またその複合施設の名前が「図書館」という名称なのか、それとも「市民〇〇」という名称の中の「図書館」なのか。

また、複合施設の1階部分が図書館というのは死守してほしいという意見が昨年度の協議会で出された。施設の名称と、施設の中のどこに図書館が入るのか、この部分は、昨年度の協議会で話したことなので、アンケートの中に入れてほしかったと思います。

〈事務局〉 去年そういったご意見をいただいたことは重々承知しております。去年の協議会の後に、複合施設の構成をする施設の変更が若干ありました。市民活動センターと憩いの家と中央図書館。それに労働会館と国際交流センターも一

緒になりました。市の関係各課や開館時間や休館日、料金の要不要などが全部違う施設が一緒になります。どこの場所に図書館がくるのかも含めて協議をしている最中です。あまり具体的なことをお知らせできる状況にはないですが、今後調整をしていきたいと思っています。

〈事務局〉 図書館の協議会ですので、図書館を中心に各委員のみなさんからいただいた意見は、このアンケート等いろいろな形になっていますし、現在の利用者に期待をしていただいているところもあります。できるだけ図書館の機能を充実し、新しい時代にそった新しい図書館に向けてやっていくのですが、複合施設ですので、各部署で担っている利用団体のみなさまの声もあります。非常に難しい面もありますが、教育委員会としてはしっかり進めていきたいと考えております。

〈委員〉 この施設をつくるに当たって、倉敷市としての文化的なメッセージはどのようなものがあつたのでしょうか。たとえば、学校現場でいうと、本よりスマホというタイプの子どもたちはたくさんいるので、読書離れに一生懸命歯止めをかけようとはしているのですが。たとえば、若いお母さんが普段はタブレットを子どもに見せているけど、ちょっと子どもに絵本でも見せてみようかと声をかけてもらえるようなまちづくりのコンセプトというようなものを持っておられるのかどうか。それによっては、一概に今利用されている方のものとか元来の図書館の在り方とかを少し見直してみる必要があると思います。ねらっているところがあるのだったら教えてください。

〈事務局〉 ねらっているところは複合施設です。

〈委員〉 複合をねらっているのですか？市民の読書活動とか文化的教養を高めるとか
そうところではなく？

〈事務局〉 もともとの目的は、図書館の移転ということはもちろんなのですが、周辺の老朽化した施設と一緒に。もともとの基本構想はそこです。

〈事務局〉 訂正をさせていただきます。

もちろん図書館の機能としては、公立の図書館として必要なもの。今の利用実態に合わせて今後残していくべきものというのは、当然それぞれ役割分担があります。それから、なぜ図書館を利用しないかの問いに、購入するとか、

インターネットを利用するとかありましたが、図書館を取り巻く環境はどんどん変わっていきっていると思います。そういった中で、われわれが公立図書館として担うべき役割を果たしていくのですが、2020年の行革プランの中で、今年度中に図書館の管理運営方針を定めるとしております。もともとは図書館としてやっていくのですけれども、その行革プランの中で管理運営方針を決めて、今年度中には発表するという形で、関係各課とも協議を進めていきながら、この協議会やアンケートや議会などでご意見をいただいて整理をしていく中でまとめていきます。協議会もこのたびだけではなく、またお伺いする機会もあるかと思います。そういった中でやっていきたいと思えます。

〈委員〉 本筋ではないかもしれませんが、この中央図書館ができたときは、文化都市倉敷を発信するという事で、隣接の博物館と美術館と一緒に開館しました。そういう施設をもってこれから倉敷市は文化都市を目指すというアピールがありました。いろいろな施設が老朽化してというのもよく分かりますので、言葉でうまく言えばいいというものではないかもしれませんが、これからの未来の倉敷市が、あまり文化とかけ離れてないように発信していただけるようなコンセプトを示していただけるとうれしかったです。

〈委員〉 いろいろなものが複合してできていくことが分かったが、いろいろな世代の人たちがそこで集って、つながっていくようなことになったらいいなと思いました。それぞれの入る施設が分断された形でとりあえず入るのではなくて、何かそこでひとつつながりができればいいと思います。子どもたちも活用する中で、お年寄りとつながりができる場とか、そういうふうなものがあったらいいなと漠然と思います。

〈委員〉 複合施設になることで、いろんな世代や、いろんなジャンルと方と、今まで図書館を使わなかった方が図書館に立ち寄ってくれるなどのメリットもすごく期待しています。ただ、図書館というのは何が一番大事かという、きちんとした蔵書が確保されていて、それを扱う司書業務です。利用していただくためにはカフェとかいろんなスペースなども必要ですけども、核になるのは司書業務だと思いますので、そこはゆるぎないようにぜひいただきたい

たいです。やはり最後は人なので、司書が働きやすく、私たちも自分の人生を豊かにするために図書館へ行くことに文化的な意味合いがあると思います。一番核になる司書業務というのを省かないでほしいと思います。

〈委員〉 山陽新聞に、「図書館の未来を考える会」という会から、民営化反対という署名が提出されたという記事がでました。やっぱりこのことが気になります。民営化となると今の司書はどうなるのか。民営化になる前に図書館協議会にぜひ諮っていただきたい。図書館協議会というのは基本的には諮問機関ですので。市の条例に館長が図書館協議会に諮問すると書いています。協議会としては諮問していただきたい。これは要望ですが、ぜひお願いします。

〈委員長〉 これもまた図書館の方とまた協議をしてみたいと思います。

ただ、ここにいる人間はみんな基本的には本が好きなので、それは分かっていたいただきたいなと思います。いろいろご意見をいただいたのですが、またご意見がありましたら、直接こちらの方に書いて出していただいてもいいと思います。委員の方よろしく願いいたします。

今日ご欠席の方にもお話をし、ご意見を聞いてみてください。図書館を利用される方に何かアンケートのようなものをしていただけたらと思います。

本日の議事を終了させていただきます。ありがとうございました。

7 閉会 宇多川副委員長あいさつ